



主体的に考え実行し成果を上げる二学期

校長 村上 昭夫

○実りの秋

秋は何をするにもよい季節であるといわれます。育ててきたことが実っていく「実りの秋」でもあります。今年は、感染症予防対応等で時間のより良い使い方を考えてきたと思います。生徒の皆さんには、時間を大切にして自分自身に栄養を与えてほしく思います。自分から他の人にも与えましょう。そして多くの実を実らせていきましょう。

○体育祭からの学び

保護者の皆様には、観覧をご遠慮いただくという対応をいたしました。誠に申し訳なく思うところです。ご理解ご協力につきまして心より御礼申し上げます。また、テントについては、近隣の7校から21張を借用することができました。各学校のご厚意につきましてこの場をお借りして重ねて感謝申し上げます。当日は盛会のうちに終了することができました。それは皆様のご理解ご協力を得られてことであると深く感じております。ありがとうございました。

さて、今回は、①新型コロナウイルス感染症予防と熱中症予防を同時に進めていること②無観客ではあるが、多くの方々の応援があること③選手であると同時に運営する人であること④今日という日にベストを出せるよう最終調整をすること⑤適度な緊張は最高の結果をもたらす可能性があることなどを生徒に伝えました。体験を通した学びとなったと思います。競技内容も、より「思考」が伴う工夫をしました。

○一人一人が「経営者」として

「主体的に考え実行し成果を上げる」ということを実現するために「経営」しているという考えで見てみることも大切ではないかと考えます。

私は校長として経営的視点をもって学校で仕事をしています。しかし、私だけではありません。教職員で言えば、学年や、学級や、授業、部活動、事務などを経営していると言えるでしょう。

生徒の皆さんに置き換えると、それぞれ学校での役割を持っており、学年や、学級、班、生徒会活動、学校行事、部活動など、リーダーを務める機会と、それを支えるフォロワーである機会を多く経験します。どちらも経営的視点を持つ機会として重要です。これらの経験が「主体的に考え実行し成果を上げる」ことにもつながるとも思っています。

○結びになりましたが、今後とも本校の教育活動にご理解ご協力をお願い申し上げます。

行事の振り返り

★体育祭 9月19日（土）



第66回 体育祭を終えて



体育的行事委員長
稲次 智也

9月19日（土）に第66回体育祭を開催しました。

今年度は新型コロナウイルスの影響もあり、例年通りの5月開催を断念しました。中学校生活最後の体育祭となる3年生はもちろん、多くの生徒から「体育祭は今年どうするんですか？」と不安の声が多くありましたが、無事に開催することができ、嬉しい気持ちでいっぱいです。

今年度の体育祭は、午前中開催、種目の削減及び変更、感染症対策はもちろん熱中症対策、無観客での実施という例年にない形での行事となりましたが、石川台中の生徒は前向きに行動し見事に成功を収めてくれました。

石川台中の4大行事の1つである体育祭は、練習から生徒が指示を出したり、振り返りを行ったりと生徒が主体的に体育祭成功に向けて動きます。生徒ひとりひとりが互いを思いやり、感染症対策に努めながら全力で練習に取り組んでいる姿に、我々教職員も元気をもらいました。

代表生徒が校長先生の前で選手宣誓をした際に、印象に残っている言葉があります。「この状況下で体育祭ができること、共に練習を頑張った仲間達に感謝したい」体育的行事委員長として、心に響く代表生徒の一言に感動しました。代表生徒だけでなく、石川台中の生徒、教職員が同じ思いを持って一丸となって、開催することができた体育祭だと感じました。

無観客での開催となり、ご理解ご協力いただきました保護者、地域の皆様にこの場をお借りして感謝申し上げます。